

世界のアセスメントの動向

自動車アセスメントは世界各地で実施されており、国連でもNCAPを強力に押し進めている。NASSVAは自動車の安全性に係る国際会議に参加し、アセスメントの試験方法等について情報交換を行い、NCAPの発展に努めている。

- 国連の交通安全のためのグローバルプラン(2011~2020)
フレームワークの柱の1つである「より安全な自動車」の中で、NCAPの促進が掲げられている。(下記参照)
- 交通安全に関する国連決議(2014年4月10日)
国連総会において、グローバルプランの内容を含めた「68/269. Improving global road safety」が、あらためて決議された。

Encourage implementation of new car assessment programmes in all regions of the world in order to increase the availability of consumer information about the safety performance of motor vehicles.

諸外国のアセスメントの動向

- 欧州
衝突被害軽減ブレーキ装置(AEBS)の評価
2013年：対車両の試験の導入
2016年：対歩行者の試験の導入予定
2018年：夜間、対自転車等の試験の導入予定
- 米国
2013年：
車線逸脱警報装置(LDWS)試験の導入
AEBS(対車両)試験の導入
後方視界支援装置の試験の導入



予防安全技術の概要

衝突被害軽減ブレーキ(対車両) (平成26年度試行、27年度本格実施)



車線逸脱警報装置 (平成26年度試行、27年度本格実施)



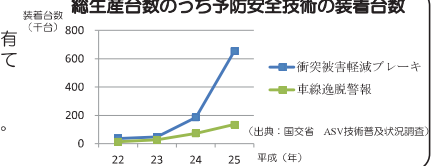
前方の障害物を検知し、衝突による被害を軽減するために、運転者への警報及び制動装置の制御を行うシステム。

自動車が車線から逸脱しようとしている、又は逸脱している旨を運転者に警報することにより車線逸脱を防止するシステム。

- ・多くの自動車会社から被害軽減ブレーキ等の機能を有した自動車が発売され始め、急速に生産台数が増加している。

- ・より安全な性能を有する自動車の普及が求められる。

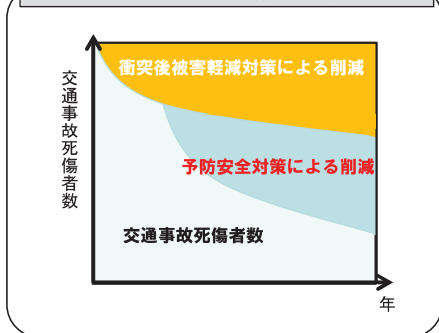
総生産台数のうち予防安全技術の装着台数



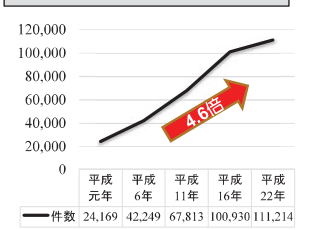
日本の課題と対策

- 交通安全対策の課題である、高齢者や歩行者・自転車運転者の被害を防止するためには、自動車の衝突後の被害軽減対策だけでは対応は難しく、事故自体を防止する予防安全対策が重要である。

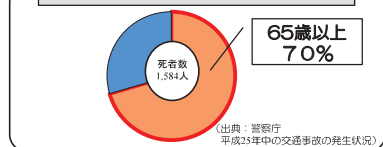
将来の車両安全対策による交通事故削減のイメージ



高齢者が第一当事者となる事故数



歩行中の死者数に占める高齢者の割合



衝突を回避する**予防安全技術**の普及が不可欠

予防安全性能アセスメントの導入(ロードマップ)

- ・これまで以上に交通事故被害者を減らしていくため、高い効果が期待できる予防安全技術について、日本の事故実態や消費者等の声を反映したアセスメント試験を、欧米と同様に今後、積極的に導入していく必要がある。

	2014	2015	2016	2017	2018
AEB	衝突被害軽減ブレーキ(対車両)	試験開始(試行)	本格実施		
	衝突被害軽減ブレーキ(対歩行者)	試験方法・評価方法の作成		試験開始(試行)	本格実施
LDWS	車線逸脱警報装置	試験開始(試行)	本格実施		
	その他の予防安全装置				
その他の予防安全装置	車両周辺視界情報提供装置等	試験方法・評価方法の作成	試験開始(試行)	本格実施	
	車線逸脱防止	試験方法・評価方法の作成		試験開始(試行)	本格実施
	夜間歩行者警報	試験方法・評価方法の作成		試験開始(試行)	本格実施



予防安全性能アセスメントの概要

▶ 本年度については、ロードマップに基づき、予防安全技術の普及を促す観点で、衝突被害軽減制御装置（AEBS）[対車両]と、車線逸脱警報装置（LDWS）の試験・評価及びその結果を公表する。

1. 予防安全技術のアセスメントの実施

平成26年3月、アセスメント評価委員会において、試験方法と評価方法に関するプロトコルが決定した。

- (1) 衝突被害軽減制御装置（AEBS）性能試験方法【対車両】
- (2) 車線逸脱警報装置（LDWS）性能試験方法
- (3) 予防安全技術（ASV）性能評価方法

2. 試験スケジュール等

- (1) 平成26年度において、上記試験方法に基づき試験を実施、また評価方法に基づき評価結果（得点）等について公表を行う。
[AEBS 配点32点、LDWS 配点8点の合計点を公表]
- (2) 国交省とNASVAは、評価結果について、随時公表することを基本とする。ただし初回の公表においては、平成26年度10月中旬を目途にそれまでに実施した試験車両について、まとめて公表する。
- (3) 自動車メーカー等は、評価結果に基づき、右のようなロゴマークを用いて、当該車種に関して広報することができる。

【ロゴ案】



17

(具体例) AEBSの試験・評価について (2)

3. 評価の指標

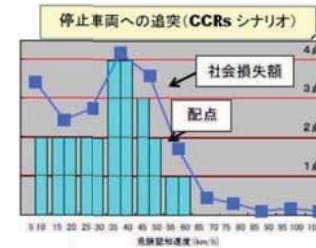
シナリオ毎、機能毎に車速を5km/h刻みで試験を行う。（最大34条件）
試験毎に衝突時の速度低減率を算出する。

$$\text{速度低減率} = \frac{\Delta V_0 - \Delta V_c}{\Delta V_0}$$

Vo: 初期相対速度、Vc: 衝突時の相対速度
衝突の場合はゼロ、衝突回避の場合は1となる。

4. 配点

国が試算したASV技術の事故低減効果に基づき、AEBS[対車両]については33点が割り当てられ、シナリオ別、機能別、速度別に重み付けをして配点する。近似配分した結果は以下のとおり。（死亡・重傷事故において、装置が機能することによる低減効果を、失わずにすむ社会損失額として算出する。なお警報機能と制御機能は配点を1:1とする。）



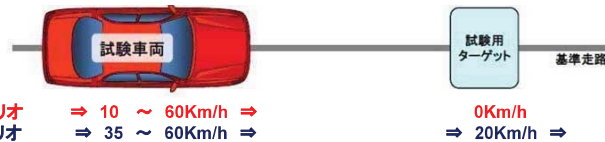
19

(具体例) AEBSの試験・評価について

▶ 前方車両との距離相対速度を検出し、衝突の可能性がある場合は、運転手に促すための警報を発し、さらに衝突回避あるいは被害軽減のために自動ブレーキを行う装置について、日本の事故実態等に合わせて、試験・評価を行う。

1. 試験方法

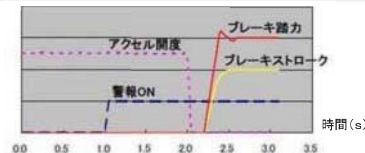
停止及び低速走行(20km/h)の試験ターゲットに向かって走行する2つの試験を行う。



2. 評価対象機能

- (1) AEB試験: 自動で衝突回避、速度低減を行う自動ブレーキ機能の評価
- (2) FCW試験: 衝突警報/緊急ブレーキアシスト機能の評価

・衝突警報を聞いて、ドライバが反応するものの、強いブレーキができない状況を想定
⇒ 警報発生後、1.0sでアクセルOFF、1.2s後にブレーキON（通常時の0.4G相当）



18

4. 普及啓発活動



自動車アセスメントの普及啓発活動 ～交通事故被害者の声～

独立行政法人
自動車事故対策機構
NASVA National Agency for
Automotive Safety and Victims Aid

重度の後遺障害者の声 ～入院～

療護施設（交通事故被害者専門病院）の設置・運営

自動車事故により脳損傷を生じ、重度の後遺障害を負われた方（遷延性意識障害者）を専門に受け入れ、手厚い治療・看護等を行う療護施設を全国7箇所で開催・運営している。



病棟見学

重度の後遺障害者の声 ～在宅～

重度後遺障害者に対する介護料の支給

自動車事故により重度の後遺障害が残る、介護が必要な方に介護料を支給している。また、職員が家庭を訪問して情報を提供し相談に応じる「訪問支援」や「交流会」なども実施している。



訪問支援

交流会

遺族の声

交通遺児等に対する生活資金の貸付

自動車事故により保護者が死亡又は重度の後遺障害が残った遺児等に、育成資金の無利子貸付を実施している。また、遺児等の健全な育成を図るため「友の会」の活動も実施している。



友の会の集い

絵画・書道等コンテスト

保護者交流会

ご清聴ありがとうございました。



交通遺児友の会 平成25年度書道コンテスト
デザイン賞受賞作品



NASVA National Agency for
Automotive Safety and Victims Aid JNCAP

自動車アセスメントの普及啓発活動（2）～交通事故被害者の声～

独立行政法人
自動車事故対策機構
NASVA National Agency for
Automotive Safety and Victims Aid

NASVA被害者援護制度の交通事故被害者は、多くの方が「自分と同じような被害者を1人でも少なくしたい」と強い思いを持って活動している。また、交通事故当事者の活動は、当事者意識の少ない国民に対しても効果的である。このような観点から、NASVAでは交通事故被害者と連携して自動車アセスメントの普及啓発活動を実施している。

交通事故被害者の声

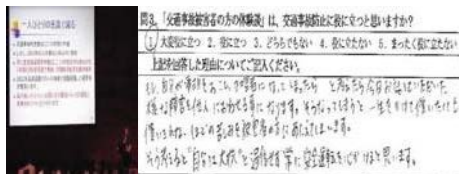


（主な意見）

- ・交通事故被害者はクルマ選びに慎重であり、自動車アセスメントの結果を重視している。
- ・自動車アセスメントを通じて、人にやさしく、安全な車が普及することを望んでいる。そして、私たちのような遺族や被害者が1人でも少なくなることを願っている。

交通事故被害者の活動

- ・NASVA講習会（交通事故被害者の方の体験談）



- ・自動車アセスメント結果（ガイドブック）の配布



予防安全技術に関するアセスメントの普及啓発活動にも、交通事故被害者との連携が必要